

併設型中高一貫教育校の現状

- 1 高志高校・中学校の概要
- 2 高志高校・中学校の入学者選抜志願倍率
- 3 高志中学校の市町別入学状況（過去3年）
- 4 英検取得状況
- 5 「高志学」6年間の概要
- 6 「高志学」論文テーマ
- 7 高志高校・中学校のコンテスト等の入賞業績
- 8 高志高校の主要大学合格実績
- 9 高志高校・中学校に関する卒業生アンケート結果
- 10 福井県高等学校教育問題協議会答申抜粋

1 高志中学校開設の経緯

(1) 改革検討委員会での議論、県教育委員会の発表

平成25年1月：福井県立高等学校改革検討委員会

「福井県における中高一貫教育の推進について～併設型中高一貫教育の導入等に関する議論のまとめ～」提言を公表

平成25年3月：福井県教育委員会

「福井県における中高一貫教育校(附属中学校併設)の設置方針」を公表

(2) 開校準備(校舎改築工事、教員派遣研修)

平成25年4月：校内準備委員会立ち上げ。以後学校教育政策課と定期的に準備会議を開催。茨城県、静岡県、長野県の公立中高一貫校に、教員各1名を1年間派遣

平成26年2月：福井県立高志中学校設置に関する福井県立学校設置条例一部改正

平成26年4月：福井県立高志中学校設置。

平成26年12月：第1期増築工事竣工(中高職員室・学習室、校門・校名碑他)

平成27年2月：大阪府の私立中高一貫校に教員2名を1週間派遣

平成27年2月：第2期増築工事竣工(中学技術室、中学保健室ほか)

平成27年4月：福井県立高志中学校開校。第1期生90名入学

平成27年4月：京都府の公立中高一貫校に1名を1年間派遣

平成30年1月：若葉食堂(ランチルーム)竣工。給食開始

2 教育目標

平成25年3月「福井県における中高一貫教育校(附属中学校併設)の設置方針」で公表された、高志高校・中学校における併設型中高一貫教育の教育目標は、以下のとおりである。

「地域社会、国際社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性」

「ふるさと福井への深い理解と大きな誇り」

「世界に通用する語学力と国際感覚」

3 教育概要

- ・高志中学校は、30名×3学級を募集
- ・内進生は高校入学者選抜を経ずに、高志高校に進学
- ・高志高校では、高校入学者選抜で40名×4学級を募集
- ・高入生と内進生が、学習や部活動、探究活動等で切磋琢磨する併設型中高一貫教育を実施
- ・高志高校では、進学型単位制教育課程を実施。2年次に文・理分け、3年次に志望大学による類型分けを実施

4 高志中学校、高志高校の学級編成、生徒数（令和3年度）

【中学校】

	1年	2年	3年	備考
A組	30	30	30	
B組	30	30	30	
C組	30	30	30	

【高校】

	1年	学級	2年	学級	3年	学級
1組	41	高入	41	高入理系標準	31	理系類型b・c
2組	40	高入	41	高入理系発展	32	理系類型・b
3組	40	高入	38	高入文系標準	36	理系類型・b
4組	40	高入	39	高入文系発展	36	理系類型a
5組	29	内進	30	内進文系発標	38	文系類型b・c
6組	29	内進	28	内進理系標準	38	文系類型b
7組	29	内進	29	内進理系発展	28	文系類型a

※2年次 発展クラス……発展的な内容を含む学習を一定以上のスピードで学習するクラス

標準クラス……基礎的から発展的な内容の学習をじっくりと学習するクラス

※3年次 類型aクラス……国公立超難関大学、医学部医学科を志望するクラス

類型bクラス……国公立難関10大学～地方大学を志望するクラス

類型cクラス……芸術、看護等特色ある選抜を行う大学を志望するクラス

5 高志中学校の教育の特色

・授業時数の増加、高校課程の先行履修

標準授業時数と比較して、3年間で合計350時間多くの授業を実施

3年での数学Ⅰ、生物基礎の早期履修

学校設定教科「論文基礎」：論文作成に必要な知識・技能を習得する

「英語表現基礎」：外国人教員が単独で授業

・英語コミュニケーション能力の育成

朝活動の基礎英語（ラジオ講座）やICTを活用した学習支援

課外活動…英語教員やALTが、英語ディベートに参加する生徒の支援

検定受験…卒業までに全員が英語検定準2級に合格することを目標

・嶺南研修（1年）、東京研修（2年）、シンガポール研修（3年）

・土曜活用授業

スーパー・ティーチャー（大学、他県中高一貫の教員）による授業

・特別活動

学校祭は、高校と合同で実施。生徒会活動は、高校とは別の組織であるが、高校生徒会と合同で活動する場も設定

6 高志高校の教育の特色

・進学型単位制教育課程

生徒の興味関心、進路希望に応じて科目を選択

・スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクール

スーパーサイエンスハイスクールの指定は、第4期の4年目（通算19年目）を迎えている。平成26～30年度には、スーパーグローバルハイスクール（SGH）にも指定。

東京大学、京都大学大学院、福井経済同友会等と連携

・英語コミュニケーション能力の育成

英語4技能を総合的に伸ばす学校設定科目の設定

「英語活用AE（Advanced Expression）」、「英語活用BE（Basic Expression）」

「英語活用DD（Debate & Discussion）」、「英語活用RP（Research & Presentation）」

「英語表現CW（Change the World）」

・選択型研修旅行

【サイエンス研修】アメリカ東海岸、アメリカ西海岸、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、国内（首都圏）

【グローバル研修】タイ、ベトナム、オーストラリア、国内（首都圏）

・課外授業、特別講座、個別指導

・特別活動（学校行事、部活動、生徒会活動等）

学校行事、部活動、生徒会活動等の特別活動では、中高が合同で取り組む内容を充実

・海外留学の奨励

SGHに指定された平成26年度以降、海外留学を積極的に奨励。

No2

高志中学・高等学校の入学者選抜志願倍率

	高志中学校			高志高等学校 ()理数科		
	募集人員	受験者	倍率	募集人員	受験者	倍率
平成 27 年度	90	545	6.06	266 (38) ※推薦 0 (17)	416 (33)	1.56 (1.57)
平成 28 年度	90	316	3.51	228 (38) ※推薦 2 (17)	336 (33)	1.49 (1.57)
平成 29 年度	90	336	3.73	234 (39) ※推薦 0 (18)	343 (28)	1.47 (1.33)
平成 30 年度	90	339	3.77	160 ※推薦 1	272	1.71
平成 31 年度	90	327	3.63	160	295	1.84
令和 2 年度	90	329	3.66	160	301	1.88
令和 3 年度	90	327	3.63	160	275	1.72

No3

高志中学校の市町別入学状況（過去3年）

市町	平成31年度			令和2年度			令和3年度		
	県立中 入学者数	全児 童数	割合 (%)	県立中 入学者数	全児 童数	割合 (%)	県立中 入学者数	全児 童数	割合 (%)
福井市	55	2,310	2.4%	45	2,288	2.0%	61	2,280	2.7%
永平寺町	4	165	2.4%	2	156	1.3%	2	171	1.2%
大野市	0	256	—	0	256	—	4	234	1.7%
勝山市	2	181	1.1%	4	174	2.3%	1	161	0.6%
あわら市	4	203	2.0%	2	217	0.9%	1	196	0.5%
坂井市	11	861	1.3%	13	889	1.5%	7	872	0.8%
鯖江市	5	679	0.7%	8	697	1.1%	5	702	0.7%
越前町	0	208	—	0	174	—	0	202	—
越前市	6	763	0.8%	6	740	0.8%	3	716	0.4%
池田町	0	14	—	0	16	—	1	12	8.3%
南越前町	0	90	—	1	79	1.3%	0	83	—
敦賀市	3	587	0.5%	9	642	1.4%	2	568	0.4%
小浜市	0	244	—	0	223	—	0	244	—
美浜町	0	67	—	0	60	—	1	67	1.5%
高浜町	0	111	—	0	68	—	0	80	—
おおい町	0	69	—	0	71	—	0	65	—
若狭町	0	123	—	0	121	—	0	129	—

No4

英検等取得状況

高志高校

(人)

CEFR	R2年度 高3	R1年度 高3	H30年度 高3
B2以上 (実用英語技能検定準1級他以上)	17	4	6
B1 (実用英語技能検定2級他以上)	164	167	171
A2 (実用英語技能検定準2級他以上)	63	95	81
A1 (実用英語技能検定3級他)	1	0	2
合計	245	266	260

高志中学校

(人)

英検取得状況	R2年度 中3	R1年度 中3	H30年度 中3
1級	0	0	0
準1級	0	4	3
2級	28	46	44
準2級	51	40	37
3級	6	0	4
4級	0	0	2
5級	0	0	0
不明	4	0	0
合計	89	90	90

大学等での研究

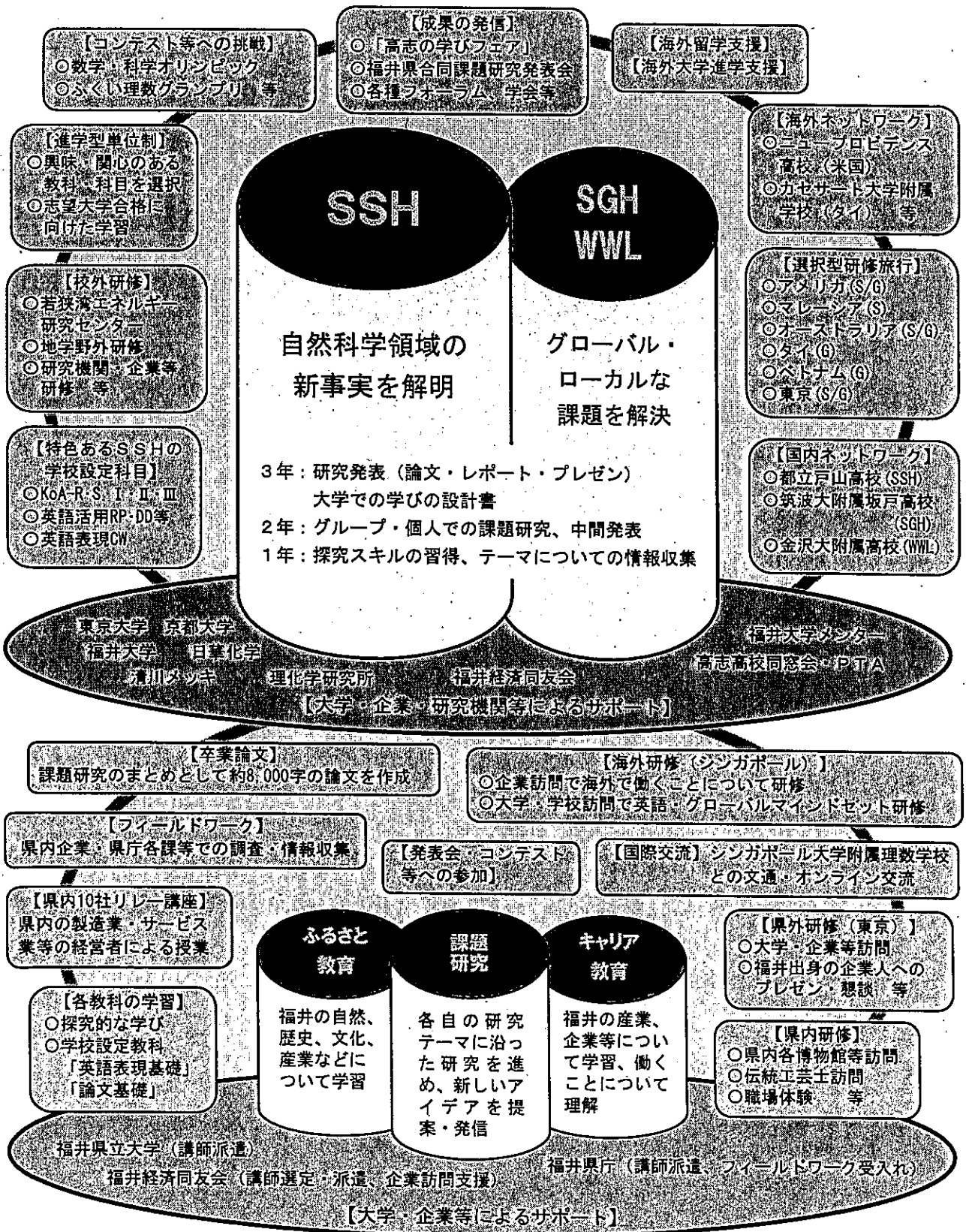
国際社会・地域社会の課題解決に貢献

これからの時代を創る新しいタイプのリーダー

～「ふるさと福井」に対する誇りとグローバルな視野を持って新しい分野にチャレンジし、社会を変革していく人～

高志高校での3年間

高志中学校での3年間



- ・えちぜん鉄道及び公共交通機関全般をより利用しやすい社会の実現
- ・足羽川における「かわまちづくり」制度を取り入れたまちづくり
- ・米作り支援の変化による稲作の活発化
- ・恐竜博物館の来館者を増やすために
- ・福井の食を観光資源として最大限活用するために
- ・農業従業者を増やすための農業体験の充実
- ・インスタグラムの活用による福井県の知名度の向上～北陸新幹線開通に向けて～
- ・インフルエンサーマーケティングを利用した越前和紙の活性化について
- ・福井市の災害対策について
- ・福井県の共同スポーツウェアブランド設立
- ・福井県に観光列車を走らせることによる鉄道会社の経営改善と地域への影響について
- ・エコツーリズムで嶺南の観光を発展させる
- ・福井に合ったUIターン政策
- ・敦賀港の魅力を発信し、利益拡大に繋げる
- ・九頭竜川の環境を示す魚を次世代へ残し続けるために
- ・いちほまれの知名度をあげるために
- ・シェアサイクリング事業で、生活・観光用の移動手段の補完を
- ・環境に配慮した製品を活用し福井の繊維産業を支える
- ・テレワークによる地方移住
- ・小浜の食と原子力について
- ・鯖江のメガネに最新技術を組み合わせ、社会に活用しよう！
- ・大野を水の環境モデル都市に
- ・持続可能な地域づくりとえちぜん鉄道の発展

高志中学校のコンテスト等の入賞実績

【表1】全国中学生英語ディベート大会における高志中学生の成績

平成29年度	3位
平成30年度	優秀ディベーター賞(個人)
令和元年度	7位

【表2】「科学の甲子園ジュニア」における高志中学生の主な成績

平成30年度	実技工作競技2位(団体)・総合9位
令和2年度	エキシビジョン大会 総合10位

【表3】「ふくい理数グランプリ」における高志中学生の主な成績

平成28年度	数学部門優秀賞(団体)	理科部門最優秀賞(団体)	理科部門最優秀賞(個人)
平成29年度	数学部門奨励賞(団体)	数学部門優秀賞(個人)・奨励賞(個人)	理科部門優秀賞(個人)
平成30年度	数学部門最優秀賞(団体)・優秀賞(団体)・優秀賞(個人)	理科部門優秀賞(個人)	

【表4】「科学の甲子園ジュニア」「ふくい理数グランプリ」以外の理数系コンテスト等における高志中学生の主な成績

平成28年度	日本ジュニア数学オリンピック甲信越・北陸地区優秀賞
平成29年度	日本ジュニア数学オリンピック甲信越・北陸地区優秀賞
平成30年度	南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞 優秀賞(団体)
	日本ジュニア数学オリンピック甲信越・北陸地区優秀賞(団体)
	日本再生医療学会総会中高生のためのセッション(ポスター部門) 金賞
令和元年度	マグネットコンテスト 最優秀賞(個人)・佳作(個人)
令和2年度	PCNこどもプロコン 中学生ソフトウェア部門 PCN特別賞
	自然科学観察コンクール 佳作(個人)
	マグネットコンテスト 最優秀賞(個人)・審査員特別賞(個人)

高志高校のコンテスト等の入賞実績

【表1】高志高校生の英語関係の各種大会・コンテスト結果、海外留学等(令和元年度)

全国高校生英語ディベート大会準優勝(団体)・優秀ディベーター賞(個人)
 高校生英語ディベート東海ブロック大会 第2位
 Make Friends Cup in Fukui 優勝・優秀ディベーター賞 第2位
 全国高校生英語ディベート大会関西ブロック予選 in 滋賀 第3位
 海外留学 長期留学3名(カナダ、ニュージーランド、オーストラリア)、短期留学14名
 トピタテ!留学JAPAN 2名(イギリス、アメリカ)
 AIG高校生外交官 1名(アメリカ)、公文財団奨学金事業 1名(スイス)

【表2】「ふくい理数グランプリ」における高志高校生の主な成績

平成28年度 理科部門最優秀賞(団体) 最優秀賞・優秀賞(個人)、数学部門優秀賞(団体)
 平成29年度 理科部門優秀賞・奨励賞(団体)
 平成30年度 数学部門最優秀賞(団体)、数学部門奨励賞・理科部門奨励賞(個人)
 令和 元年度 数学部門最優秀賞・優秀賞・奨励賞(団体)
 理科部門最優秀賞・優秀賞・奨励賞(団体)
 令和 2年度 数学部門優秀賞・奨励賞(団体)
 理科部門最優秀賞・優秀賞・奨励賞(団体)

【表3】高志高校生の学会等での発表

令和 元年度 宇宙技術および科学の国際シンポジウム
 高校生環境フォーラム、日本遺伝学会
 日本再生医療学会、ジュニア農芸化学会
 東京都立戸山高校発表会
 令和 2年度 高校生環境フォーラム
 日本金属学会、兵庫県立豊岡高校発表会、東京都立戸山高校発表会

【表4】高志高校生の課題研究関係コンテストの全国入賞実績

令和 元年度 日経ストックリーグ 高校生部門 第1位
 全国中高生のための英語プレゼンテーションコンテスト
 (チェンジメーカーアワード) 団体の部 銀賞

高志高校の主要大学合格実績

入試年度	R3入試		R2入試		R1入試		H30入試	
3年生徒数	245		266		258		297	
	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
国公立大学	165	14	166	30	160	24	177	34

入試年度	R3入試		R2入試		R1入試		H30入試	
大学名	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
北海道大学	4		3	1				
東北大学	1	1			1		1	
東京大学	10		1		1	2		1
一橋大学	1							
京都大学	4		2	1	2			1
名古屋大学	8	1	10	3	5		5	2
大阪大学	8	1	2	1	4	1	6	
神戸大学	15	1	6		10	2	11	3
九州大学		1	1		1	1	1	1
国立医学科	3		3	公立1	1		2	3
私立医学科	2		1	1		1	1	3
自治医科大学		1	1					1
早稲田大学	9	2	4		2	3	3	1
慶應大学	3	1			1	2		2
関西大学	15	3	18		7	3	18	12
関西学院大学	15		16		7		8	3
同志社大学	23	4	19		12	3	11	9
立命館大学	81	5	36		50	9	48	15

[参考] 令和3年度大学入試における主要地元国公立大学合格実績

入試年度	R3入試		R2入試		R1入試		H30入試	
3年生徒数	245		266		258		297	
大学名	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
福井大学	23	1	38	4	39	3	55	7
福井県立大学	7	3	13		12	3	12	1
金沢大学	25		18	2	26	1	28	4
富山大学	10	1	11		6	1	10	2

高志高校・中学校に関する卒業生アンケート結果（生徒）

【調査要領】

対象生徒：令和2年度高志高校卒業生、保護者

実施時期：令和3年2月

回答状況：内進生 81人/88人（回答率92.0%） 内進生保護者 82人/88人（回答率93.1%）

高入生 154人/158人（回答率97.5%） 高入生保護者 105人/158人（回答率66.5%）

1 クラス編成について（内進生・高入生）

現 状

1・2年生は内進生と高入生は別々クラス 3年生は混合クラス

アンケート結果

項目	内進生		高入生	
	人数	割合	人数	割合
1年次から混合クラス	20人	24.7%	28人	18.2%
2年次から混合クラス	23人	28.4%	19人	12.3%
今のまま	33人	40.7%	83人	53.9%
最後まで別々	5人	6.2%	24人	15.6%

・早期の混合クラス編成を希望する生徒が存在（内進生 53.1% 高入生 30.5%）

（早期の混合クラスを望む理由）

- ・交流が無ければ中学と高校が併設している意味がない（高入生）
- ・刺激があり中だるみが防げるため（内進生）
- ・交流機会を増やしてほしい（内進生、高入生）
- ・3年から混合クラスでは団結感なく受験に向かうことになる（内進生、高入生）
- ・同じ学校なのに壁を感じる（内進生、高入生）

（最後まで別々のクラスを望む理由）

- ・授業スピードが速すぎて授業内容を定着させるのがつらかった（高入生）
- ・2年まで別々のクラスなら3年だけ混合クラスにする必要がない

（内進生、高入生）

(参考) 内進生との交流は入学する時のイメージと同じだったか

(高入生のみ質問)

項目	高入生	
	人数	割合
もっと交流があると思っていた	62人	40.3%
思っていたとおり	65人	42.2%
思っていた以上に交流があった	27人	17.5%

・約4割の高入生が「もっと交流があると思っていた」と回答

2 先行履修について (内進生)

現 状 中学で高校科目の数学 I、生物基礎を履修

アンケート結果

項目	内進生	
	人数	割合
大学受験の準備に役立った	67人	82.7%
大学受験の準備に役立たなかった	14人	17.3%

・先行履修は8割の内進生が大学受験の準備に役立ったと回答

(参考) 卒業した中学校でも先行履修があった方が良かったか

(高入生のみ質問)

項目	高入生	
	人数	割合
とてもそう思う	35人	22.7%
まあまあそう思う	46人	29.9%
あまりそう思わない	45人	29.2%
まったくそう思わない	28人	18.2%

・5割の高入生が先行履修はあった方が良いと回答

3 先行履修について（内進生）

アンケート結果

	もっと早い方がよかった	ちょうどよい	もっと遅い方がよかった
数学Ⅰ	17人 (21.0%)	58人 (71.6%)	6人 (7.4%)
生物基礎	9人 (11.1%)	65人 (80.2%)	7人 (8.6%)

・「もっと早い方が良かった」「ちょうどよい」が9割あるものの、「もっと遅い方がよかった」が1割存在

（参考）高志高校の授業について（高入生のみ質問）

※高入生も2年次で高校の大部分の授業内容を修了

	とても大変	大変	余裕	とても余裕
数学	33人 (21.4%)	75人 (48.7%)	35人 (22.7%)	11人 (7.1%)
理科	20人 (13.0%)	65人 (42.2%)	61人 (39.6%)	8人 (5.2%)

4 高志学について（内進生）

現 状

ふるさと福井に誇りを持ち、グローバルな視点を持ったイノベーターの育成を目指し6年間で3つのプログラムを実践

- ふるさと教育プログラム 博物館など施設訪問、宿泊研修
- キャリア教育プログラム 企業経営者等による授業、職場体験
- 課題探究プログラム 福井のより良い将来をテーマとした探究・論文作成

アンケート結果

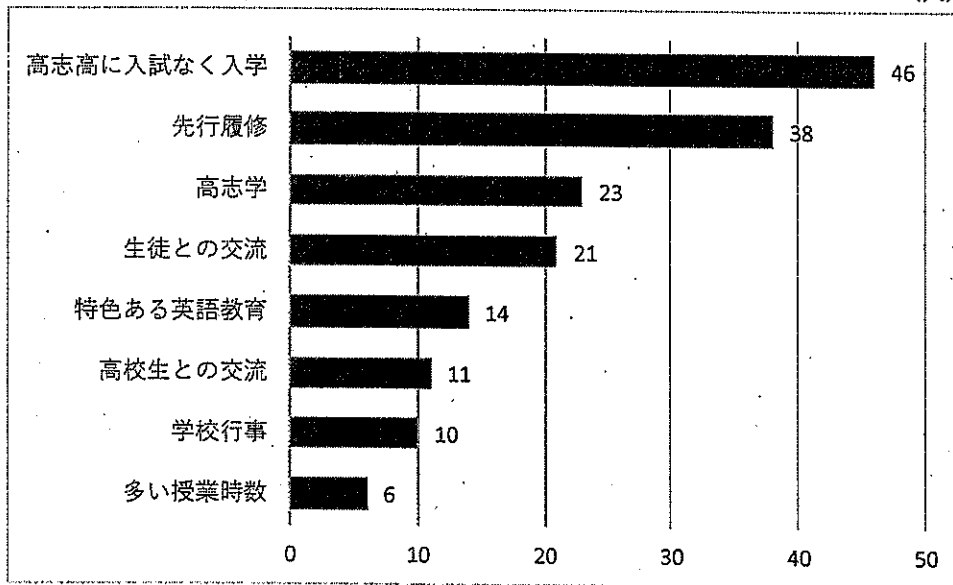
内進生	とても役立った	まあまあ役立った	あまり役立たなかった	全く役立たなかった
ふるさとに対する誇り	25人 (30.9%)	48人 (60.5%)	5人 (4.9%)	3人 (3.7%)
グローバルな視野	30人 (35.8%)	47人 (59.3%)	3人 (3.7%)	1人 (1.2%)
チャレンジ精神	27人 (32.1%)	54人 (67.8%)	0人 (0%)	0人 (0%)

「あまり役立たなかった」「全く役立たなかった」と答えた理由

- ・グローバルな事に触れる機会が少なかった。
- ・ローカルなテーマを扱ったから
- ・日本国内でのみ考えていたから。
- ・ふるさとを調べる度に、ふるさとの事に対して誇りを持てなくなった。
- ・福井の抱える問題の多さに絶望した

5 入学の動機について（内進生 複数選択）

(人)



高志高校・中学校に関する卒業生アンケート結果（保護者）

【調査要領】

対象生徒：令和2年度高志高校卒業生、保護者

実施時期：令和3年2月

回答状況：内進生 81人/88人（回答率92.0%） 内進生保護者 82人/88人（回答率93.1%）

高入生 154人/158人（回答率97.5%） 高入生保護者 105人/158人（回答率66.5%）

1 クラス編成について（内進生・高入生の保護者）

現 状

1・2年生は内進生と高入生は別々クラス 3年生は混合クラス

アンケート結果

項目	内進生保護者		高入生保護者	
	人数	割合	人数	割合
1年次から混合クラス	14人	17.1%	27人	25.7%
2年次から混合クラス	8人	9.8%	16人	15.2%
今のまま	53人	64.6%	45人	42.9%
最後まで別々	7人	8.5%	17人	16.2%

・早期の混合クラス編成を希望する生徒が存在（内進生 26.9% 高入生 40.9%）

（早期の混合クラスを望む理由）

- ・クラスを別々にすると差別的意識を生みやすいと思うから（高入生保護者）
- ・様々な生徒との交流により、学校生活に意欲が持てると思うから

（内進生保護者、高入生保護者）

- ・入学当初は別々の学校と保護者が感じたため（高入生保護者）
- ・3年は受験勉強が中心。友達づくりは1、2年でやるべき（内進生保護者）
- ・内進生は3クラスで志望校も幅広になる。早めに混合クラスにして志望別にした方がよい（内進生保護者）

（最後まで別々のクラスを望む理由）

- ・2年末で内進生に追いつく必要から、数学の授業速度が速すぎると思ったから（高入生保護者）
- ・中高一貫校としてのメリットが生かせると思うから（内進生保護者）
- ・先生への対応や言葉がけに不平等・劣等感を感じた。それなら最後まで別々の高校の生徒として扱ってもらった方がよかった（高入生保護者）

III 県立高校の魅力化に向けた目指すべき方向性

1. 地域の普通科系高校の魅力化

(羽水、足羽、三国、金津、丸岡、大野、勝山、鯖江、丹生、武生東、敦賀、美方)

地域の普通科系高校においては、進学から就職まで様々なニーズに対応することが必要である。今後は、市町の参画や協力を得ながら、長い時間をかけて地域外の高校へ通学しなくても、生徒や保護者が希望する進路を地元の高校で実現できる環境を整備することが何より重要となる。特に難関大学進学については、県教育委員会が主体となり、各高校を支援していくことが必要である。

(5) 中高の一貫した教育体制の充実

本県初の併設型中高一貫教育校として開校した高志中学校の第1期生が今年度末に高志高校を卒業することから実績を検証するとともに、連携型中高一貫教育校の成果や課題、地域の実情等も考慮して今後の中高連携の在り方を検討していくことが望ましい。

2 スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 指定4校の魅力化

(藤島、高志、武生、若狭)

SSHの指定を受けてから10年以上経つ高校があるが、研究機関や大学との関係を強化しながら、これまでの取組みやノウハウを生かし、さらにステージアップしていく必要がある。高校入試の段階から秀でた才能や得意な教科を持つ生徒を確保し、進路希望に応じた環境充実を図る必要がある。

(1) 多彩な教育課程等の設置

① 高校入試における特色選抜の拡充等

高校入試において、秀でた才能や得意な教科、領域を持つ中学生を対象とした特色選抜を実施するとともに、科学オリンピック(数学、物理、化学、生物、地学)や情報オリンピックの対策講座を開催するなど国際大会を目指す生徒や指導教員のレベルアップを支援すべきである。近年、国の高大接続改革の流れの中で、東京大学など難関大学においても従前の推薦入試やAO入試を導入・拡充する動きがあり、こうした動きにも対応していくことが求められる。

② 多様な興味・関心や進路希望に対応し集中して学習する単位制の導入

創造的な発想ができるリーダーを養成していくため、文系理系に関わらず幅広く深い教養を教科横断的に学び、総合的で多角的な見方・考え方を伸ばしていくことが求められている。このため、生徒一人一人の多様な興味関心や進路希望に対応するため単位制を導入し、進路選択に必要な科目を選択することによる「自分だけの時間割」作成を可能とすることも考えられる。

③難関私立大学への進学支援

4校の生徒についても、国公立大学のみならず難関私立大学へ進学したいという進路ニーズもあることから、入学説明会や入試対策講座を開催するとともに、教員対象の入試研究会の開催も検討すべきである。

(2) 探究的活動の深化

①研究機関や海外の高校等と連携した探究的活動の推進

JAXA や理化学研究所、東京大学等の研究機関の人材を、オンライン上でアドバイザーとして招聘し、専門的見地から助言を受けることも必要である。

また、海外の高校等と共同研究を実施し、研究成果を国外の大会でも英語で積極的に発信し外部評価を得ることが重要である。

②海外留学や海外大学への進学支援

今後はSSH で培った海外との交流経験を生かして、姉妹校の締結やICT の活用による交流を活性化させ、海外の大学への進学等を促進させていく必要がある。

そのためにも、生徒に対し、留学や海外大学への進学に関する説明会の開催や他県でも例のない「きぼう応援海外留学奨学金」の活用を促すなど、海外大学への進学を支援していく必要がある。